

4年2組

 わたしたちの住む地域
 ～戸隠から見つめる長野市～


これが戸隠に行ける最後のチャンスかもしれない

6月に戸隠をクラスで初めて訪れ、化石を発掘したり、鉱石を見つけたりしました。学校へ戻ってくると、「次の戸隠では、川の生き物を調べたいね」「もっとどんなことができるか知りたいね」「戸隠神社に行ってみたいな」など、子どもたちは次の戸隠へ向けて、期待に胸を膨らませていました。

当初、子どもたちと予定を立てていた時期は9月の中旬でした。しかし、夏休みが明けてみると、新型コロナウイルスの感染が拡大しており、校外学習ができない状態でした。川で生き物を調査したいと考えていた子どもたちは、がっかりと肩を落としていました。

そうして迎えた10月。校外学習ができるようになり、子どもたちと一から戸隠見学の予定を考えなおしました。「戸隠で何がしたいかな・・・」と考え込む子どもたち。そんな時にAさんが同じ班のBさんに向かってつぶやきました。

A：「またコロナが広がれば、戸隠には行けなくなるってこと？」

Bさんが答えます。

B：「そうじゃない？」

A：「じゃあさ、これが最後の戸隠かもしれないってことか」

この2人の会話はすぐにクラス全体に広がりました。

「そっか、最後か・・・」「やりたいことを一つに選べない」

最後の1回かもしれないという思いが、ますます子どもたちの頭を悩ませます。

「戸隠にどうして忍者がいるのか調べたい！」

「やっぱ戸隠といえば蕎麦でしょ！」

「戸隠にはどんな鳥がいるのか調べたいな！」

「戸隠の竹細工って有名みたいだよ。面白そう！」

「戸隠神社のことを知りたいな！」

「もっともっと石のことを知って、

（化石博物館の）館長先生みたいになりたい！」

子どもたちから、次の戸隠見学に向けた願いが出てきました。そうして、クラスで話し合いを重ねる中で、

「これが最後の戸隠になるかもしれないから、みんなそれぞれにやりたいことがあるし、一つのことを選べない」

とAさんが思いを話してくれました。

そこで、午前中はそれぞれに戸隠で体験したいことを決めて体験してくる。午後はみんなで戸隠を流れる裾花川の石を調べるということになりました。



校外学習で何を学ぶかを、自分たちで決めることができた子どもたち。戸隠について考えることを通して学習そのものを自分たちで作りに上げていく経験を積むことができました。

今回の戸隠見学へ向けて、校内でできる事前学習をしました。

蕎麦打ちの事前体験として、小麦粉から作るうどん。

忍者の事前体験として、戸隠流忍法の忍者をお招きしての忍者体験。

竹細工の事前体験として、同じ北信地域の伝統工芸の一つの内山和紙の紙すき体験。

ひとつひとつの体験の時間にも戸隠見学を意識しながら真剣に、そして興味深く学びに取り組む子どもたち。予定通り9月に行けなかったからこそ感じた充実の時間でした。

見学当日は、ちょうど戸隠の紅葉が見頃を迎えており、さらには天気も恵まれて、絶好の紅葉狩り日和でした。

午前中は、野鳥観察・奥社見学チーム、忍者資料館チーム、竹細工チーム、蕎麦打ち体験チームに分かれて時間いっぱい活動しました。午前中が終わって、バスに戻ってきた時の子どもたちの笑顔いっぱいの表情からは、とても充実した時間が過ごせていたことが伝わってきました。

現在は、子どもたちがお互いに午前中にどんな時間を過ごしたのか発表し合う原稿を作成しています。

これから子どもたちの興味がどう広がっていくのか楽しみです。

